

本日は、全国ダイバーシティネットワーク組織第3回幹事会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、ご多忙のところ、文部科学省の梶原審議官にご参加いただき、この後にご挨拶を頂戴しますこと、心から御礼申し上げます。

ここであらためまして、幹事大学の皆様には、日頃より全国ダイバーシティネットワークの地域ブロック活動を牽引いただいていることに、衷心より感謝申し上げます。

さて、皆様もご承知のとおり、本年5月に開催予定であったシンポジウムは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を延期いたしました。日本においては、このような活動自粛や、ウェブ会議などのインターネットの活用、また国民一人ひとりの努力の甲斐もあって、感染拡大防止に一定の成果が見られつつあります。

しかし、未だ感染が拡大する国・地域も多く、予断を許さない状況が続いています。

そのような中、コロナ感染症への対策が見事であったとして、特に台湾、ニュージーランド、ドイツ政府は世界から称賛を集めました。台湾の蔡英文総統、ニュージーランドのジャシンダ・アーダーン首相、ドイツのアンゲラ・メルケル首相。彼女たちはその手腕によって、性別に関係なくリーダーシップが発揮できることを、あらためて私たちに示しました。

これから我々が迎えるコロナ新時代においては、先行きが不透明な、不安な状況が続くことが予想されます。

しかし見方を変えれば、これは新たなイノベーション創出に向けたチャンスでもあります。イノベーションを生み出すのはダイバーシティの力であり、とりわけ性別、ジェンダー・ダイバーシティはダイバーシティの要になると私は確信しています。

本学はこれを支えるべく、今後も代表幹事機関として、コロナ新時代を見据えた全国的な活動を展開してまいります。

そしてそのことを通じて、全国ダイバーシティネットワークの発展、女性リーダーの活躍に少しでもお役に立てれば望外の喜びとするところです。

皆様方におかれましては、引き続き事業の実施にご尽力、ご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。